令和 3 年度第 2 回アーバンデザインセミナー実績報告書

1. 開催日時

令和 3 年 7 月 28 日（水）　18 時 30 分～20 時 00 分

参加人数: UDCBK での視聴: 1 名、オンライン: 15 名＝計 16 名

※オンライン会議システムと UDCBK のオープンスペースでの視聴を併用

2. テーマ

「みんなでつなぐ南草津の未来へ」

- 草津市では、今秋に、令和 12（2030）年度を目標年次とする今後の南草津エリアにおける、まちづくりの推進の方向性を定めることを目的とした「南草津エリアまちづくり推進ビジョン（南草津ビジョン）」を策定する予定である。7 月から、パブリックコメントを実施しており、今回のセミナーでは、南草津エリアを対象とした調査研究を行っておられる立命館大学の金 度源氏を講師に迎え、市民、地域、大学などの多様な交流から生み出される南草津の未来について展望する。

3. 話題提供者

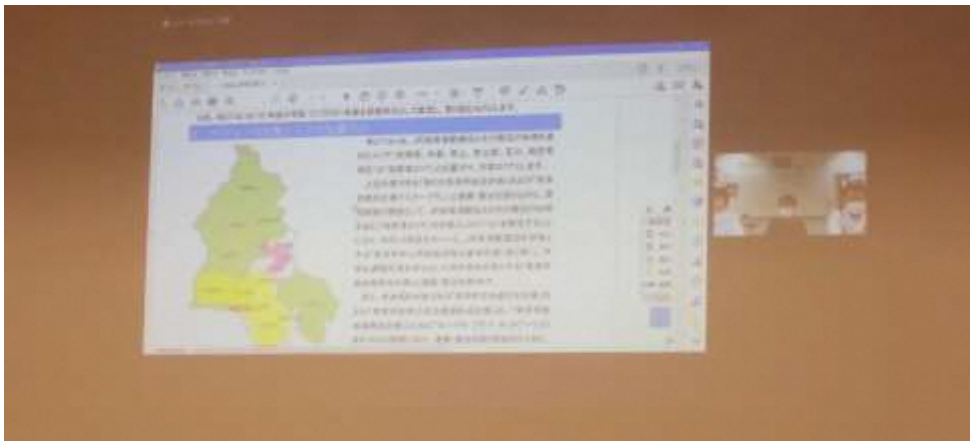
- 金 度源 (Kim Dowon) 氏
  立命館大学 理工学部 環境都市工学科 准教授
- 草津市都市計画部都市計画課

4. 話題の概要

(1) 草津市都市計画課による「南草津ビジョン」の概要の説明

- 今回の対象となっている南草津エリアは、27 年前の平成 6 年の南草津駅の開業や、立命館大学びわこ・くさつキャンパスの開学をきっかけに市街地として発展をしてきた一方で、交通渋滞の慢性化や、地域的な優位性を活かしきれていないなどの課題がある。
- 将来の人口減少を視野に入れた中で、今後のまちづくりの方向性を定めて、まちの魅力や活力を高めていくために、今回のビジョンを策定する。
- ビジョンの対象エリアとしては、JR 南草津駅周辺に加え、さらにその周辺の地域も含めたエリアになっており、志津南、矢倉、老上、老上西、玉川、南笠東の 6 学区を対象としている。
- ビジョンの位置付けとしては、上位計画である今年 3 月に策定した「第 6 次草津市総合計画」や、「草津市都市計画マスタープラン」と整合を図りながら、作成を進めてきた。また、JR 草津駅周辺を対象区域とする「草津市中心市街地活性化基本計画（第 2 期）」や郊外部を対象とする「草津市版地域再生計画」に加えて、本ビジョンを策定することで、市内 14 学区すべてをカバーすることになる。
- 施策の体系（南草津エリアの課題と将来像、目標、基本方針、施策）について、この内容は、住民代表や学識経験者、民間事業者に加え、公募委員から成る南草津エリアまちづくり推進懇話会というものを開催し、皆さんに議論をいただきながら検討を進めてきた。立命館大学の方からも、理工学部の岡井教授や武田教授に参画をいただき、公募委員についても、学生さんに参加をいただいた。
- 南草津エリアの将来像としては、「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『南草津』」としている。
- 目標と基本方針について、一つ目は、大学や企業が立地する南草津の特性を活かして、「活力」に関したものとしている。二つ目は、琵琶湖、東海道といった豊かな地域資源を活かしながら、利便性が高く、安全で快適に暮らせることを目指し、「住環境」に関するものを設定している。三つ目については、JR 南草津駅周辺やびわこ文化公園都市周辺などの充実した都市空間、交通環境を踏まえ、「交流」というものを設定している。
- 施策の分類方針では、JR 南草津駅周辺のにぎわい形成として中心拠点施策群を設定しているほか、東の拠点施策群は大学や病院が立地する環境にあるので、学術・研究複合連携の拠点として位置付けている。また、西の拠点施策群では、琵琶湖の自然環境や文化振興を推進するための施策を展開していく予定である。
- 今後については、新たなプラットフォームで、地域の皆様や大学、企業、関係団体や行政といった各主体による連携体制の構築を図りながら、南草津エリアのまちづく

りを進めていくことを目指している。また、5 年程度を基本として、PDCA サイクルを取り入れて、ビジョンの見直し等検討を進める予定である。



(2) 金氏による講演

ア. まちの居場所とコミュニティ

- 小学校 3 年生の時に、1 年間京都に住んでいたことがあり、その頃の思い出が印象深く残っている。
- 例えば、私にとって銭湯というものは、特別な「まちの居場所」のように感じる。韓国にも大衆浴場はあるが、日本のようにまちに住んでいる色々な人が毎日のように集まってきて、世間話をしたり、交流したりできるのは、やはり特別な場所である。
- 大学生の時に、3 年間休学して 2 年半の兵役に就いたが、残りの半年間を語学留学と見聞を広げる目的でカナダに滞在することにした。
- バンクーバー郊外のコキットラムというところにホームステイした。ここを衛星写真で見ると分かるのは、緑の多さである。住んでいた家の前には公園があり、そこで人々が色々なアクティビティを楽しんでいた。ほかにも豊かな自然があって使いやすく整備された公園がある。そして、その場では様々なコミュニケーションが生まれる。そのようなたくさんの公園が「まちの居場所」になっている。
- 私が専門としている分野は防災であるが、防災をきっかけとした魅力的な空間づくりについても考えている。文化遺産防災学という観点で言えば、歴史的な町並みや地域文化が残っている場所を魅力的な町並みにつなげていくためのコミュニティデザイン学というものも専門としている。
- 特に重視しているのは、地域の課題、特性、文化をよく理解することである。
- また、都市における計画づくりのための様々なコミュニティデザインの手法の開発と実践を行っている。立命館大学の歴史防災研究所というところで、毎年、外国人の専門家などを集めて、ワークショップなどを開催したり、ツールを開発したりしてい

る。そのことがきっかけとなって、UDCBK の前副センター長であった武田先生から声が掛かって、南草津のコミュニティデザインに関わるようになった。

イ．南草津プリムタウンと公園整備計画について

- JR 南草津駅周辺の野路町から南笠町にかけて広がる広大なエリアに南草津プリムタウンという住宅地が整備されている。このエリアに公園ができるということで、まちに住む人たちが公園の利用方法を自分たちで考えていくようなことはできないかと、2019 年 6 月から現在まで取組を続けている。
- 日本における都市公園は、オープンスペースとして開かれてはいるけれど、あまり使われていないような印象がある。もしかしたら、住民もどう使ってよいのか分からないのかもしれない。
- これは大変にもったいないことであって、やはり、住んでいる人が自由に使える公園でなければいけないと思う。そこで、安心できる、楽しく過ごせるみんなの公園づくりに向けたコミュニティ会議を開催しようということでプロジェクトを進めてきた。
- まずは、十禅寺川沿いの 1 号公園を対象に、草津市の都市再生課や UDCBK とともに、現地を下見しながら、何ができるかということを考えるところから始めた。
- 日本の都市公園はきれいに管理されているが、寂しい印象がある。にぎわっている時間帯もあるが、多くの時間、人があまりいない。
- ほかのまちでは、例えば、暫定利用のようなかたちで、住民が自由に公園の使い方を考えるような事例（手作りのプールやすべり台を設置）もあり、こういったことができないかと考えている。

ウ．住まう人が利用方法を考案できる公園

（ア） 取組 1: 南草津プリムタウン第 1 回公園デザインセミナー（2019 年 11 月下旬）

- 住民自ら公園の利用方法を考え、楽しく安心できる使い方を考えてみたい、ということで、まずは、社会実験に向けた作戦会議のような位置付けで「南草津プリムタウン第 1 回公園デザインセミナー」を開催した。
- プリムタウンの入居予定者の方々30 名ほどにこのイベントのために集まってもらえ、関心の高さがうかがわれた。
- まずは、UDCBK のオープンスペースに皆で集まり、その後、実際にプリムタウンの 1 号公園建設予定地まで歩いてみることにした。そうすることで、実感を持って距離やまちの様子などを知ることができた。
- その後、事前アンケートを元に、参加者を関心分野や年齢層などでグループに分け、現地でワークショップを行った。ワークショップは、次の四つの質問(「A. この公園、こうなったら嫌だ」、「B. この場所で、こういうことをしてみたい?」、「C. 車の通りとフェンスがなくなったら、川と公園で何がしたい?」、「D. この場所のデザインやイ

ベント実施に向けてどのように関わりたい?」）について、学生をファシリテーターにして、公園を歩いたり、近くの十禅寺川を視察したりしながら、参加者が考えていった。

（イ） 取組 2: アンケート調査（2020 年 1 月下旬）

- ワークショップで出された意見を元に、同じ質問に対して、他の入居予定者に対して事後アンケート調査を実施した。質問 A の嫌な公園としては、「緑がない」、「夜暗い」など、B のこのようなことをやってみたい（このようになってほしい）は、「イベント」、「芝生」、「カフェ」など、C のフェンスがなくなったら川と公園で何がしたい（何がほしい）かは、「桜並木」、「遊歩道」、「水遊び」など、D の今後の関わりについては、「途中経過を教えてほしい」、「ホームページなどで自由に意見交換したい」、「デザインミーティングへの参加」などの回答があった。
- 特に、D からは、主体的に参加したいという意欲がうかがえるが、この気持ちは、最近発足した町内会の会合に同席してみても全く変わっていないということが分かった。

（ウ） 取組 3: イラストアンケート調査（2020 年 4 月下旬）

- 言葉だけでなく、ワークショップやアンケートで出された意見・アイデアを参考に、イラストを描いた。ここでは、特に芝生やフェンス、イベントに着目した。
- また、イラストを用いた郵送形式のアンケート調査を実施した。条件別に公園の風景を提示（例えば、芝生の割合、フェンスの有無など）し、そのイラストに回答者が思い描く公園のイメージを追加してもらい、理想的な公園の姿を調査した。
- 調査結果から、「芝生の割合は 70%」が良いという意見が多かった。また、フェンスやガードレールについては、交通量の多さなど安全性の面から撤去は危険であるという意見が多数であった。さらに、子供を中心に全ての世代が過ごせる公園が理想との声が寄せられた。

（エ） 取組 4: 南草津プリムタウン第 2 回公園デザインセミナー（2020 年 10 月下旬）

- その後、「第 2 回デザインセミナー」をオンラインで開催し、具体的にどのように公園を活用するかということを話し合った。どのようなことをしたいかという点で挙がったイベント・遊び方としては、様々なものがあったが、要望の高低と実現のハードルの高低を考慮して、ラジオ体操を実施してみることにした。

（オ） 取組 5: ラジオ体操とゴミ拾いおよびイラストの評価（2021 年 1 月中旬）

- ラジオ体操とともに、セミナーでも意見が出ていた河川の清掃を併せて実施した。13 世帯（40 名程）という多数の方に参加してもらった。

- この時、これまでの意見を元に作成した 8 パターンのイラストに対する客観的評価を参加者に尋ねることにした。ここでは、SD 法という視覚的要素に対する印象評価方法を用いた（利用しやすい、居心地が良い、親しみのある、など 16 項目に対する評価）。この調査は、参加世帯に加えてポスティングで協力が得られた世帯を含め計 29 世帯から意見が得られた。
- SD 法の結果分析から、地面の構成としては、「芝生」、「小さな丘」、「植林」といったものが求められていることが判明した。空き地になっているところにもっと緑を望む声があることが分かる。また、公園の設備としては、全体的にベンチが求められている一方で、従来のような休憩所はあまり求められていないことも判明した。
- 今年度は、今までの取組を踏まえ、来年から始まる公園の設計に向けて、住民参加で設計に落とし込んでいけるようなイベントの開催を町内会の方々と進めている。

ウ．都市と交通シナリオスタディ（令和 2 年度）

- 南草津の未来について、JR 南草津駅周辺の交通の問題も含めて、シナリオプランニングを行うためのセミナーおよびワークショップについて、ファシリテーターの一人として参画した。
- シナリオを考える上では、2040 年の南草津の将来像を描き、その将来像に向けて、今どのようなことができるかを検討した。
- 具体的には、ワークショップに向けて、7 月に 4 回のアーバンデザインセミナーを開催し、企業での勤務者、学生、市民、行政職員などセミナー受講者を対象に 8 月から 10 月にかけて 3 回のオンラインでのワークショップに参加してもらった。
- ワークショップは、まず二つの軸（例えば、X 軸は現実か仮想か、Y 軸は市場経済かシェア経済か）を設定し、四つの象限から四つのシナリオを設定する。そして、最も望ましいシナリオと望ましくないシナリオを決め、望ましいシナリオを実現するための施策や望ましくないシナリオを回避するために為すべきことなどを話し合った。
- 現在、UDCBK のオープンスペースの壁面にワークショップの成果が展示されているが、3 つのグループから、「域内の Face to face の交流が促進されるまち～南草津駅を踏まえたみどりの回廊沿いに展開される多様なコミュニティ～」、「新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市～ローカルコミュニティを基礎としたシェア社会に対応したスマートシティ～」、「南草津駅を拠点とした山と湖の交流～南草津駅を拠点としてファーマーズ・マーケットが開催されるオーガニックなまち～」というシナリオが提出された。
- 私がファシリテーターを務めたグループのシナリオ「南草津駅を拠点とした山と湖の交流」では、琵琶湖側と大学などがある山側を LRT や BRT といった公共交通で結ぶことを構想した。そして JR 南草津駅周辺で地元の野菜などが販売できるファーマーズ・マーケットを開催したり、駅前の建物などの屋上に農園を設けたりして、まち

がつながっていくようなシナリオを参加者の皆さんと考えた。

- 3 つのシナリオには共通点があり、まずは公共交通の導入と駅前周辺の交通渋滞の解消の必要性である。そして、地域の魅力ある資源の活用ということである。例えば、緑や水といった今ある自然環境との融合といったアイデアが多く見られ、皆に望まれている未来の姿がどういったものかが分かる。さらに大学や学生といった学問的・人的な資源との連携も望まれている。

エ. 特殊講義 まちづくり最前線

- 担当している大学の講義「まちづくり最前線」では、学生たちが地域に飛び込んで地域のことを学んだり、地域のことを調べたりして、地域に対して何か提案ができるような内容を実践している。
- 15 週のカリキュラムであり、主体的に課題解明のプロセスを学ぶことが大きな目的である。第 1 週～第 3 週までは、「まち」とは何かということについて基本から学ぶ。その後、第 4 週～第 6 週に、まちづくり協議会や行政関係者から「まちづくり」について話してもらう。その後、グループで草津市におけるまちの課題や魅力などについて調査分析を行い、最終週に UDCBK で発表を行う。
- 何かをデザインしたり、計画したりするに当たっても、その理由をしっかりと考えるようなプロセスを学んで、地域を調査する基本スキルを得てもらいたいと考えている。今年度は例年より受講者が増加して 60 名程となったが、年々学生の関心が高まっているように思う。
- 学生が調査しているテーマは交通から空き家、防災、子供、高齢者など多様である。この講義で重要なことは、学生ならではの多様で独自の視点が尊重されることだと思っている。例えば、昼間人口に着目した調査があったが、草津市では昼間人口が夜間人口より多いということは初めて知るような内容だった。
- そして、学生の意見に対して、学生も住民の一員として、地域住民の方々にも耳を傾けてもらうことも大事だと感じている。
- 最終週の成果発表の内容は、UDCBK を通して草津市の関係部署に共有してもらっており、学生もまちづくりに役立っていると感じてもらえれば良いと思う。また、学生がまちづくりの大事な人的資源として位置付けられるようになってほしいと考える。
- 今後、学生とまちの人々がもっと顔を合わせられる居場所が南草津にできれば良いと思っている。例えば、今日お話ししたプリムタウンの公園のような場所ができることで、お互いのコミュニケーションが取れるようになっていけるのかもしれない。まちの居場所とは何かということを住民の皆さんと考えていきたい。

(3) 金氏と参加者および都市計画課との意見交換

都市計画課: 立命館大学の学生さんがいるということは、南草津にとって非常に大きなメ

リットであると感じている。お話にあったように、草津市では昼間人口の方が多いが、学生の方々がキャンパスの中で学ぶということだけではなく、地域の中に、南草津の中に入っていただいて学んでいただくようなことで、まちづくりにつながっていくようなことがあれば良いと思う。南草津ビジョンにも、そのようなことを位置付けさせてもらいながら、進めさせていただきたいと思っているので、この辺りは金先生のお話いただいた方向性とも一致していると感じており、今後、連携させてもらえればと考える。

金氏: 今回の講演では、南草津に学生と住民の方がコミュニケーションを取れるような居場所となるところができればという思いを伝えさせてもらった。その他にもう一つ、びわこ文化公園の周辺には、教育機関や研究機関、自然環境が集まっているので、そういったものの横のつながり・交流が生まれてほしい。海外の事例だが、学園都市というのは、どこまでがキャンパスで、どこまでがまちかという境界線がない。南草津でもそういうまちができれば、そこに大きなまちの居場所というものができるのではないかと思う。

参加者: 私自身は大津市民であるが、南草津への移住を真剣に考えたことがあった。非常に発展して、年々変わってきている。ただ、駅の西側と東側ではまちの様子が大きく異なる印象がある。是非、お話いただいたプリムタウンを含めて、学生と地域住民の方の居場所ができることが一番大事だと思う。また、文化ゾーンの話題が出たが、色々な交通手段での連結など、将来的に地域がつながってくるような取組をしてもらえればと思う。

金氏: 大津市に住まわれているということだが、南草津に移住されなかった理由を教えてもらうことはできるか。

参加者: 二つの理由があり、一つは運転ができないので、歩いて生活ができるような公共交通機関があるまちに住む必要があった。もう一つは、歴史とか文化とかそういったものが身の回りにあって楽しめるようなまちに住みたかった。移住を考えていた時は、まだ南草津が発展途上のような印象があった。今後、皆が集えるような、金先生がおっしゃったような居場所ができることを期待している。

都市計画課: 草津市としても御指摘いただいたような、歩いて暮らせるまち、車に乗らない方にもやさしいまち、というものを目指している。今後の高齢化ということを考えると、そういったまちづくりを目指していく必要があると考える。まちの居場所が少ないというお話もあったが、金先生が取り組んでおられる住民の方が使いやすい公園づくりのような方向性も考えながら、歩いて暮らせるまちをつくっていければと思っている。

金氏: 今回は南草津ビジョンのパブリックコメント募集という重要なタイミングでお話させていただいた。南草津は住みやすいまちになってきていると思うが、これからの 10 年でもっと、活力を上げていきたい。ビジョンに「共生」という言葉がある

が、共生のステークホルダーには大学や学生もいる。是非、協力し合って、南草津がもっと魅力的でより良いまちになるように貢献していきたい。

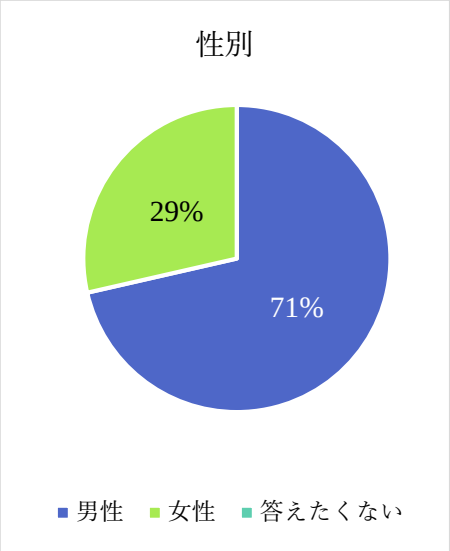
5. まとめ

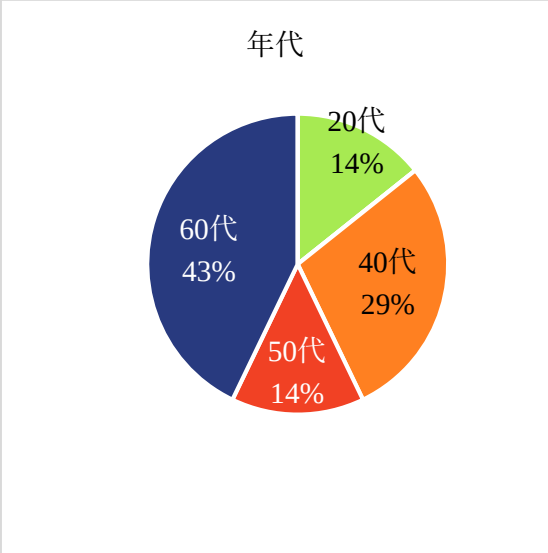
- 南草津エリアの将来像としては、「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『南草津』」が目指されているが、このビジョンの実現には多様なステークホルダーとの協働が必要である。
- 南草津には資源としての大学があり、そこで学ぶ学生がコミュニケーションしながら地域に根差していくような取組がより進んでいけば、南草津の中に、住民や学生が集える「まちの居場所」ができてくる。
- UDCBK においても、これまでの大学との連携や実践事例を活かしながら、「まちの居場所」を考えるきっかけをつくっていきたい。

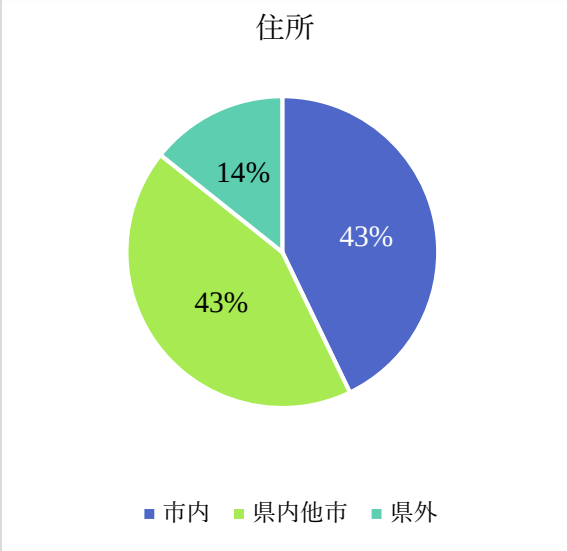
6. アンケートまとめ

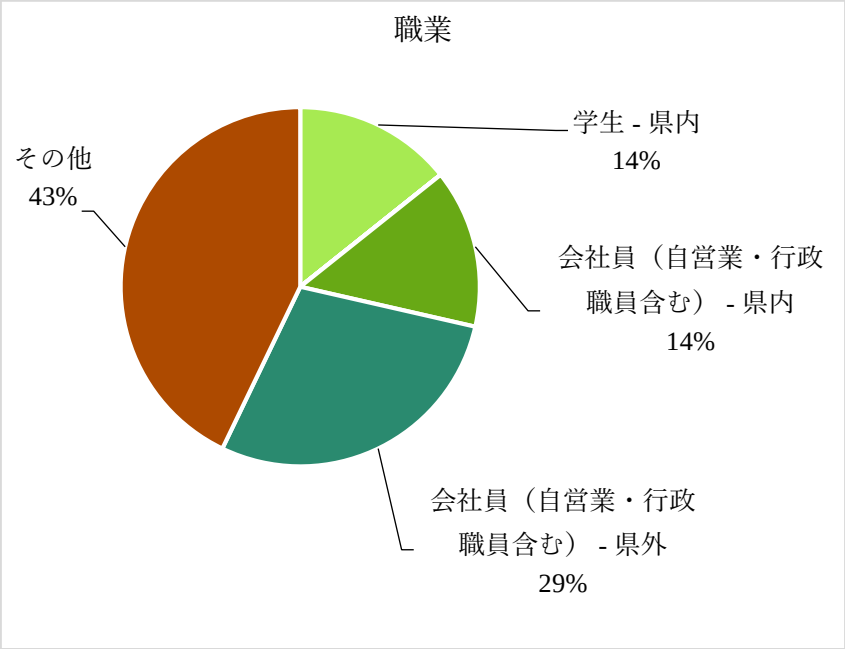
(1) 参加者属性

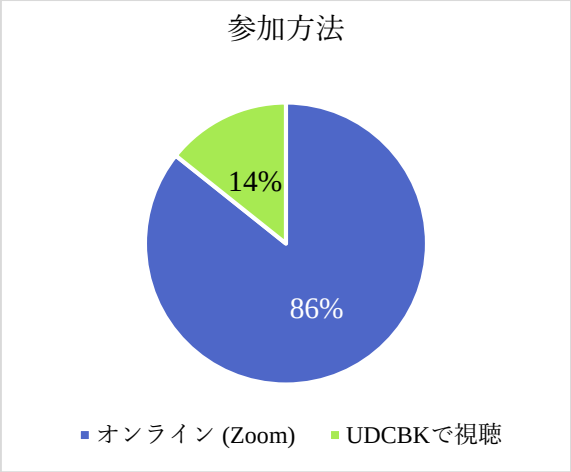
参加者 16 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 7 名、回答率は 44%だった。



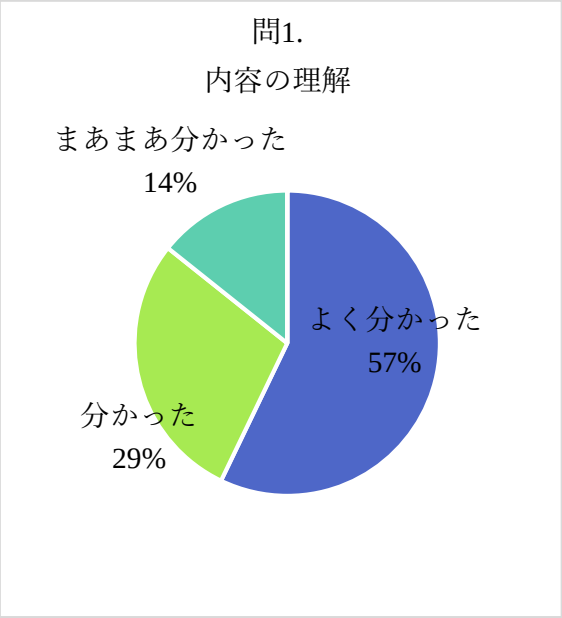


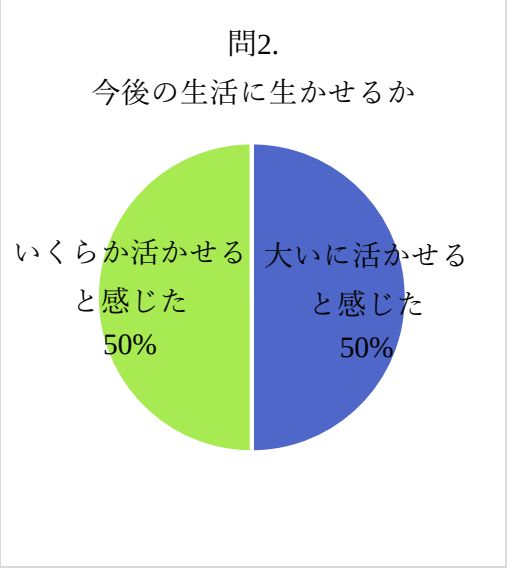


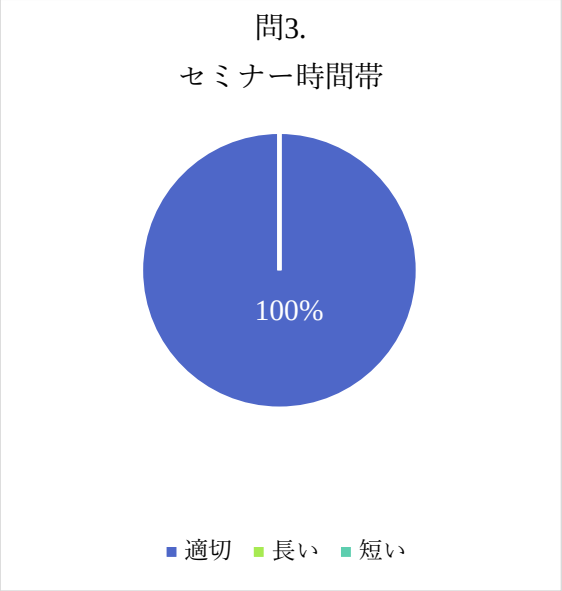

職業
学生 - 県内
14%
会社員（自営業・行政職員含む） - 県内
14%
会社員（自営業・行政職員含む） - 県外
29%
その他
43%

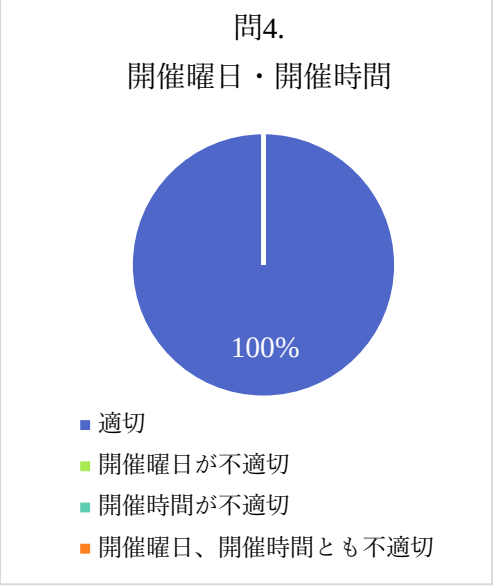

参加方法
14%
86%
オンライン (Zoom)
UDCBKで視聴

(2) 内容について









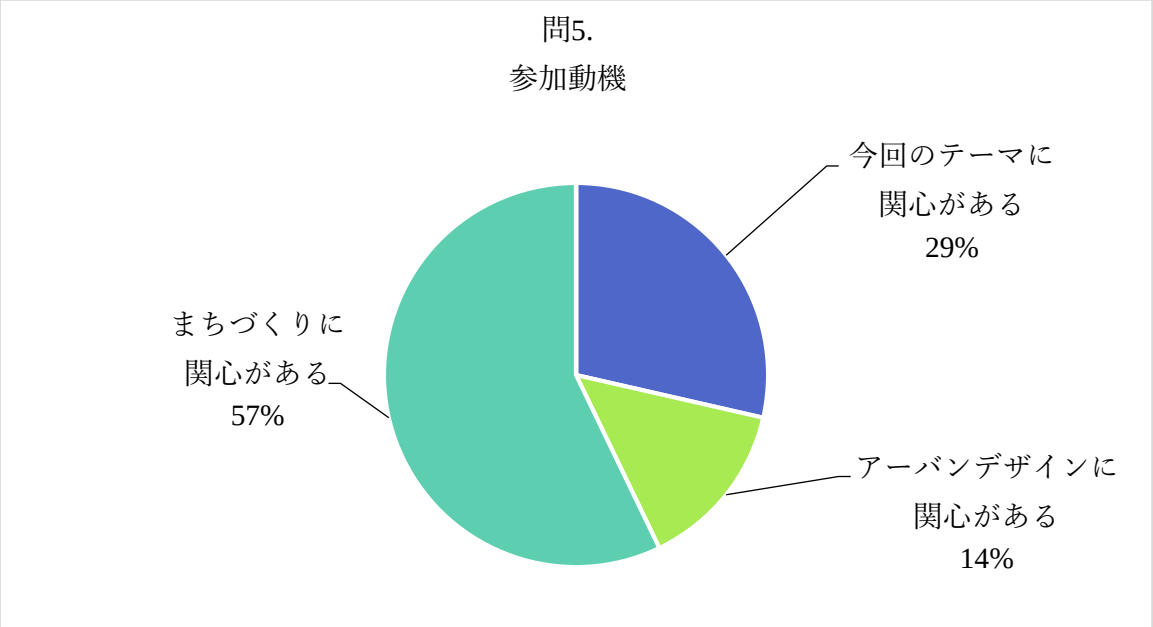
［自由記入欄回答］

問 3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問 4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし



［自由記入欄回答］

問 6.　それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・ 草津市と大津市から互いに琵琶湖をまたぐ広域での景観
  ・ 湖上交通を含む旧東海道沿道を楽しむ賑わいを新しいまちづくりにも生かすこと
  ・ 南草津地区の先駆的なまちづくりへの取り組みのご紹介（60 代男性）
- 空き家問題等を取り扱っていただきたいです。（40 代男性）
- まちのコミュニティ形成について他府県での成功事例を知りたい。（40 代女性）

【自由記入欄回答】

問 7.　今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・立命館大学と草津市さんとの連携が研究者だけではなく、学生さんの取組も一般公開され、その内容が住民や草津市さんにも波及・寄与していること。
  ・プリムタウン開発の進捗と住民の中に入っての協働が行われていること（金研究室の取組）
  ・セミナー冒頭で草津市の計画･事業の近況のご説明があったので　金先生のご発表の理解が深まった。事前にスライドを公開していただいたので　始まってからさらに興味深くお聞きできた。（60 代男性）
- 公園でのワークが印象に残りました。（40 代男性）
- 駅周辺の構想提案プランをイラストで見せていただき、グリーンが多い環境だった

り、憩いの場があり、本当に実現できると素敵だと感じました。

- 今日のようなセミナーは、もっと多くの地域住民でシェアしたいです。（40 代女性）
- 金先生の「自己紹介を兼ねた過去の経験」と、南草津プリムタウンでの活動のお話は大変印象に残りました。理由は下記の 2 つです。

  1. お話をお聞きし、金先生が現在取り組んでおられるテーマや活動は、様々な人に「まちの居場所」を提供する事に繋がるのだと感じた。

  2. 南草津プリムタウンでの、学生さんや住民の方々との活動のお話を伺い、今まで私が見聞きした、UDCBK でのセミナー・ワークショップ・学生さんのオープンプレゼンテーション、で取り上げられた事が、現実に動き出しているのだと思った。

  南草津のまちづくりが、これから更に、目に見える形で実現していくのだと、大変うれしく感じました。(60 代女性）
- 新しい住宅地に住む前にワークショップを行って、街を考えること（50 代男性）